

3月

みんなくウィークエンド・サロン

研究者と話そう

■時間 14時30分から15時30分（3月6日を除く）

■展示観覧料が必要です。

※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館（みんなく）の研究者が来館された皆様の前に登場します！
「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」
などなど、話題や内容は千差万別！

どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしております。

※特別展開催中のウィークエンド・サロンでは13回にわたりみんなくの名誉教授が初代館長・梅棹忠夫についてお話しします。

6日
(土曜日)

時間：13時30分から14時30分

話者：齋藤晃（国立民族学博物館 准教授）

話題：アマゾンのゴムプーム

場所：本館展示場内ナビひろば

20日
(土曜日)

話者：加藤九祐（国立民族学博物館 名誉教授）

話題：【特別展「ウメサオ タダオ展」関連】

1981年12月、梅棹先生ご夫妻のお供をした

モスクワ・中央アジアの旅

場所：本館展示場

27日
(土曜日)

話者：松澤員子（国立民族学博物館 名誉教授）

話題：【特別展「ウメサオ タダオ展」関連】

創造的知的生産の技術の確立をめざした梅棹先生

場所：本館展示場

1年間みんなくに何度でも入館できる 「みんなくフリーパス(3,000円)」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんなくを楽しむための特典がいっぱいあります。

特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引

◆みんなくミュージアム・ショップとレストランの10%割引

◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引 など。

詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
(電話06-6877-8893 / 平日9:00 ~ 17:00)

編集後記

弥生三月、心浮き立つ季節ではあるが、例年の数倍の花粉が飛散し始めており（これも人為のツケ）、花粉症に縁なしと豪語していたわたしも注意せねばならぬ。多くの方々を苦しめてきた、昨夏の猛暑、今冬の豪雪、口蹄疫や鳥インフル、噴火、等々、あらためて自然は人智のおよぶものではないことを知らされる。とはいえ、これも今後数十億年続くとされる地球史のほんのひとこまなのかも知れぬ。

こうした、諦観も含むズームアウトした見方は、梅棹さんにもあったのではないだろうか。距離を置いて見るからこそ、全体像を過不足なくとらえ、細部にとらわれないグランドセオリーを次々と打ち出されたように思える。3月10日開始の特別展は、こうした知の世界を知る機会になるだろう。（久保正敏）

先月号（2011年2月号）2ページの標本資料名に誤りがありました。（誤）「土鈴（鬼よろず）」→（正）「土鈴（鬼ようず）」
お詫びして訂正いたします。

●表紙：創設に先立つ1973年2月発行の『国立民族学研究博物館<仮称>設立計画』パンフに掲載されたイメージ。上から「共同研究室」「収蔵庫」「視聴覚ブース」

次号の予告

特集

耳よりの話

月刊みんなく 2011年3月号

第35巻第3号通巻第402号 2011年3月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話 06-6876-2151

発行人 西尾哲夫
編集委員 久保正敏（編集長） 朝倉敏夫 櫻永真佐夫
庄司博史 中牧弘允 山中由里子

編集アドバイザー 山内直樹

デザイン 宮谷一孝

制作・協力 財団法人 千里文化財団

印刷 日本写真印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係に
お願いします。

*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分（茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。）
- 自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてください。

みんなくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

